

ロシアによるウクライナ侵略の状況

(2023年12月12日時点)

➤ **ウクライナ軍**は、東部(ドネツク州)及び南部(ザポリヅジャ州)での攻勢が停滞する中、ヘルソン正面やクリミア半島方面への攻撃を継続する一方、**露軍**は、東部で攻勢を強めるとともに、各地への攻撃を継続している模様

戦闘による人的被害・物的損耗の状況

露軍: 死者約12万人、負傷者約18万人(NYT8月18日)

: 死者約15万人(「ウ」軍総司令官11月1日)

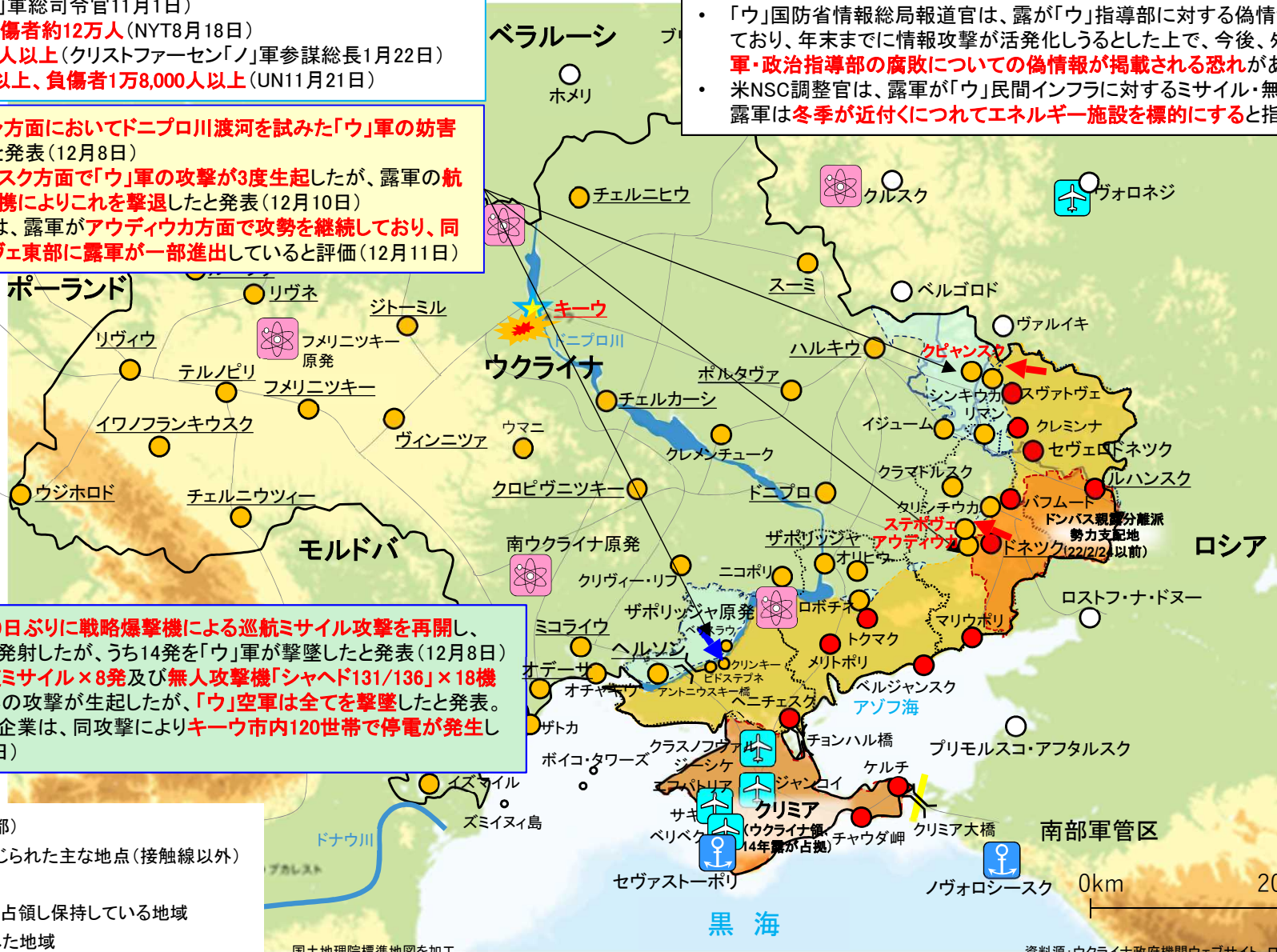
「ウ」軍: 死者約7万人、負傷者約12万人(NYT8月18日)

: 死傷者推定10万人以上(クリストファーセン「ノ」軍参謀総長1月22日)

「ウ」市民: 死者10,000人以上、負傷者1万8,000人以上(UN11月21日)

- 露国防省は、ヘルソン方面においてドニプロ川渡河を試みた「ウ」軍の妨害工作部隊を阻止したと発表(12月8日)
- 露国防省は、クピャンスク方面で「ウ」軍の攻撃が3度生じたが、露軍の航空攻撃及び砲撃の連携によりこれを撃退したと発表(12月10日)
- 米戦争研究所(ISW)は、露軍がアウディウカ方面で攻勢を継続しており、同市北東3kmのステボヴェ東部に露軍が一部進出していると評価(12月11日)

- 「ウ」戦略産業相は、155mm榴弾砲用の砲弾を米企業2社と「ウ」国内で共同生産することで合意した旨及び生産開始は最速で2年後、遅くとも3年後になる旨を発表(12月7日)
- 「ウ」国防省情報総局報道官は、露が「ウ」指導部に対する偽情報キャンペーンを開始しており、年末までに情報攻撃が活発化しようとした上で、今後、外国メディアにおいて「ウ」軍・政治指導部の腐敗についての偽情報が掲載される恐れがあると指摘(12月7日)
- 米NSC調整官は、露軍が「ウ」民間インフラに対するミサイル・無人機攻撃を強めており、露軍は冬季が近付くにつれてエネルギー施設を標的にすると指摘(12月11日)



- 「ウ」空軍は、露軍が79日ぶりに戦略爆撃機による巡航ミサイル攻撃を再開し、巡航ミサイル×19発を発射したが、うち14発を「ウ」軍が撃墜したと発表(12月8日)
- 「ウ」空軍は、露の弾道ミサイル×8発及び無人攻撃機「シャヘド131/136」×18機による「ウ」国内各地への攻撃が生じたが、「ウ」空軍は全てを撃墜したと発表。一方、「ウ」エネルギー企業は、同攻撃によりキーウ市内120世帯で停電が発生していると指摘(12月11日)

- 主要都市(下線は州都)
- ☀ 露軍による攻撃が報じられた主な地点(接触線以外)
- 露軍が占領した地点
- ☀ 侵略開始後に露軍が占領し保持している地域
- ☀ ウクライナ軍が奪還した地域

国土院標準地図を加工

資料源: ウクライナ政府機関ウェブサイト、ロシア大統領府ウェブサイト、ISW等